

精神的要素を伴う痛みに対する 人參養榮湯の効果

いわい整形外科・ペインクリニック(神奈川県) 岩井 亮

痛みとは個人の経験であり、その尺度を客観的に測るのは難しい。たとえ数値化できたとしてもその捉え方はさまざまであり、治療には個別の対応が必要となる。痛みは生体防御機構の一部であるが、その一方で、必要以上に長く続く痛みや、原因不明の痛みは大きなストレスとなり、食欲や意欲の低下、不眠、心配や不安を生じさせ、痛みの悪循環を招く。このような難治性の精神的要素を伴う痛みに対して、人參養榮湯は痛みの悪循環を断ち切ることで短期間に効果を示す処方と考える。

Keywords 痛みの悪循環、精神的要素、人參養榮湯

はじめに

痛みは、身体に迫ってくる危険を察知し、これを回避するという生体防御機構の一部であるが、その一方で、必要以上に長く続く痛みや、原因がわからない痛みは大きなストレスとなり、食欲や意欲の低下、不眠、心配や不安を生じさせる。

このような痛みに対し当院では、薬物治療や鍼灸治療などさまざまな治療方法で対処しているが、なかでも薬物治療に関して筆者は漫然とした薬剤投与は避けるべきだと考えている。

漢方薬も例外ではなく、1~2週間投与し何らかの反応が見られなければ処方を再考しているが、今回、不安や不眠など精神的要素を伴う痛みに対し人參養榮湯を処方したところ、短期間で奏効した例を経験したので報告する。

症例1 66歳 女性

【主 訴】 変形性頸椎症、変形性腰椎症、変形性膝関節症、不眠症

【経 過】 X年7月より、疼痛に対して温熱療法、トリガーポイント注射、鍼治療、苓姜朮甘湯と補中益気湯を2週間処方したが、著効なく中止。

X+1年5月より、クラシエ人參養榮湯エキス細粒5.0g/日を処方。2~3日で足の温感を実感し、2週間で「食欲が改善し元気になった」という。

症例2 77歳 女性

【主 訴】 変形性頸椎症

【経 過】 頸椎症からくる右上肢痛に対し、他院にて手術が必要だと言われていた。冷えにより痛みは増強し、強い不安を訴える。X年1月より、温熱療法、トリガーポイント注射に加え、クラシエ人參養榮湯エキス細粒5.0g/日の内服を開始。2週間後、4回の治療と人參養榮湯の内服により、寒い時期にもかかわらず上肢疼痛のVASスケールが2~3/10と安定した。1ヵ月半後、上肢痛はほぼ消失し、頸肩部痛もVASスケールが3~5/10と減少した。

症例3 90歳 女性

【主 訴】 変形性腰椎症、両側変形性膝関節症

【経 過】 X年8月からX+1年4月まで防己黄耆湯内服。X+1年4月より、クラシエ人參養榮湯エキス細粒5.0g/日の内服を開始。内服開始1週間で体の温かさを実感し、2週間で「眠りが深くなり、食事が美味しく感じるようになった」という。

考 察

国際疼痛学会において痛みは、「組織の実質的あるいは潜在的損傷と結びつか、このような損傷を表す言葉で記述される不快な感覚と情動的な経験」としており、神経伝導路・伝達経路の興奮を伴う身体的要素と、「不安」、「怒り」などの精神的要素の両方をもつと定義されている¹⁾。

痛みは様々な原因により生じるが、痛みが生じると交感

神経が興奮し、血管の収縮や筋肉の緊張を起こす。これにより血液循環が悪くなると、痛みをもたらす発痛物質が産生され、痛みが増幅する。また、痛みが慢性化すると、痛みに対する不安や恐怖、ストレスが生じ、さらに症状が重くなるという痛みの悪循環が考えられている(図)。

なかでも痛みに伴う不安には、この痛みが他人に理解してもらえないというストレスのような不安と、この痛みがいつなくなるのかわからないといった漠然とした不安の2種類があげられ、痛みの治療においては、このような不安に対しても同時に対処していくことが重要である。

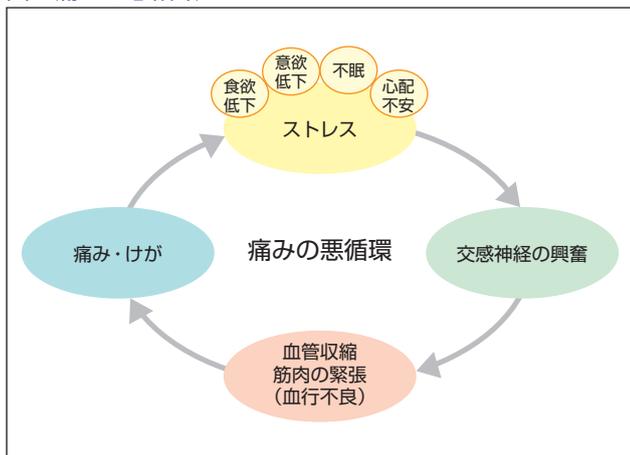
今回、痛みに対する不安や不眠を訴えた症例に人参養栄湯を投与したところ、痛みと痛みに伴う不安や不眠の改善がみられた。当院には他院で治療を受けたものの痛みが緩和しなかった難治性の疼痛患者が多く来院する。症例は提示していないが、痛みの罹病期間が長くさまざまな漢方薬を試した患者では、人参養栄湯内服により「体が温まる、疲れにくくなった」という患者を多く経験する。

人参養栄湯は、12種の生薬から構成されており、気血両虚に対する漢方薬である。薬理作用として、末梢循環血液量を増加させる作用や血小板凝集能を抑制する作用が報告されており^{2, 3)}、相磯らは、足の冷感・しびれ感を有する糖尿病患者に人参養栄湯を投与し、冷感・しびれ感の改善とともに足の皮膚温が上昇したことを報告している⁴⁾。また、構成生薬の陳皮には抗不安作用⁵⁾、遠志には鎮静・催眠作用⁶⁾、白朮には抗うつ作用⁷⁾が報告されており、血液循環障害や痛みに対する不安などの精神的要素を改善

し、痛みの悪循環を断ち切ることで短期間に効果を示したと考えられる。

痛みとは個人の経験であり、その尺度を客観的に測るのが難しい症状である。たとえVASなどを用いて数値化してきたとしても、その数値が示す痛みに対して個人の捉え方はさまざまであり、治療には個別の対応が必要となるが、不安などの精神的要素を伴う患者に人参養栄湯は有用であると考えられた。

図 痛みの悪循環



【参考文献】

- 1) Pain terms: a list with definitions and notes on usage. Pain 6: 249-252, 1979
- 2) 竹宮敏子 ほか: 人参養栄湯の末梢循環障害に対する臨床効果—指先容積脈波を加えた検討—. 薬理と治療 19: 3801-3808, 1991
- 3) 伊藤克己 ほか: ラットビューロマイシン・アミノスクレオシド腎症に対する人参養栄湯の効果. 薬理と治療 19: 659-663, 1991
- 4) 相磯嘉孝 ほか: 糖尿病神経障害に対する人参養栄湯の効果—新規皮膚赤外線体温計「サーモフォーカス®」による検討—. 新薬と臨床 56: 2028-2032, 2007
- 5) 伊東 彩 ほか: 生薬陳皮の薬理作用—抗不安作用に関して—. phil漢方 46: 26-28, 2014
- 6) 雨谷 栄: 生薬の謎を解く薬理講座43 遠志. 漢方と最新治療 25: 195-196, 2016
- 7) 小林義典 ほか: 白朮精油の抗うつ作用. AROMA RESEARCH 24: 356-361, 2005